

飛躍

静岡県東部地域の活性化を考える
2018年度のおゆみ

C O N T E N T S

● ごあいさつ	3
● 2018年度のあゆみ	4
● 特集 I 新産業の創出① スポーツ産業の振興	6
● 特集 II 新産業の創出② ファルマバレープロジェクトに新たなテーマ	8
● 特集 III 新産業の創出③ AOI-PARCの成果と県内4産クラスターの連携強化	10
● 特集 IV 新たな観光価値の創造 伊豆半島のブランド化	12
● 特集 V 動物愛護と福祉思想の普及活動支援と新たな展開	14
● 懇話会活動を広く情報発信 ラジオEAST	16
新聞特集記事「風は東から」	17
● 2019年度活動方針	18
● サンプル21 懇話会会員名簿	20
● 2018年度を振り返って(運営委員長)	27

※各ページの肩書等は行事開催時のものです。

ごあいさつ



静岡新聞社・静岡放送
社長

大石 剛

新天皇が即位され、元号が「令和」になって間もなく1カ月が経とうとしています。天皇のご逝去によらず、退位に伴って憲政史上初めて新たな元号が事前に公表され、国内は4月以降、改元への準備が進みました。改元と軌を一にするように、今年には国内外で大きな節目を迎えます。

国内に目を向けると、4月に統一地方選があり、7月には参院選が控えています。同様に両選挙が重なった12年前の参院選、第一次安倍政権下で自民党は敗北を喫しました。当時とは異なる政治状況のもとで行われる今夏の参院選は、結果次第で安倍晋三首相が悲願とする憲法改正の行方を左右する可能性があります。10月には消費税率の10%への引き上げも予定されています。

外交面では6月に国内でG20首脳会合が開かれます。米国と中国による貿易摩擦、米国と北朝鮮による非核化協議の行方は依然、不透明です。英国のEU離脱は10月末まで再延期することで双方が合意し、経済の大混乱をもたらす「合意な

き離脱」はひとまず回避できる見通しとなりました。ただ、世界情勢を巡る不安定要因は今後の日本経済に影響を及ぼしかねません。

静岡県では4月から、JR6社による大型観光誘客企画「静岡デスティネーションキャンペーン(DC)」が始まりました。9月にはラグビーW杯の4試合が袋井市のエコパで行われます。来年7月には東京五輪・パラリンピックが開幕し、県東部地域では自転車競技が繰り広げられ、静岡県が2020年にかけて、国際的に注目を集める好機を迎えます。

活動開始から25年目を迎えたサンフロント21懇話会は19年度、東京五輪・パラリンピック開催を契機としたスポーツ産業推進への参入や観光・地域産業振興の支援のほか、新たな観光価値を創造していく取り組みなどを支えてまいります。大会終了後の「レガシー(遺産)」づくりも視野に入れ、東部・伊豆地域の活性化を目指して活動を展開していきたいと考えています。これまでの皆様方のご協力に心より感謝申し上げます。今後のさらなるご支援をお願い申し上げます。





2018年度のおゆみ

作家
林 真理子
「私の仕事から」



草津温泉観光協会会長
中沢 敬
「草津温泉の試み」



県立静岡がんセンター総長
山口 建
「人生100年時代の
ファルマバレープロジェクト」



建築家
高橋晶子
「建築のデザインと実用性」



ブリヂストンサイクル社長
望月 基
「残すべきは子どもの笑顔」



時事通信社経済部長
小島 洋
「消費税増税を控えた
日本経済の動向」



◆2018年5月

活動記録「飛躍」発行

2017年度の活動内容をまとめた冊子「飛躍(A4版、28ページ)を発行。総会、分科会の活動の足跡をはじめ、16年度の活動テーマに沿った地域の動きについて掲載。2018年度の活動方針も紹介した。



◆2018年5月23日

伊豆ワサビ多面的に ガイド本発刊

総会にあわせて懇話会は伊豆産ワサビのガイドブック「わさび美(うるわ)し」を発刊した。

伊豆のワサビ栽培の歴史、「畳石式」と言われる栽培法の解説、生産者や研究者のインタビューなど、ワサビに関する知識を、写真やイラストを多用して多面的に紹介。ワサビに関係したスポットを中伊豆、天城、河津の各地区別に案内したマップや、ワサビを活用した料理も掲載した。



◆2018年5月24日

総会

2018年度総会には会員150人が出席し、本年度の活動方針を正式に承認した。活動方針で18年度に新たに盛り込んだのは、「原・浮島地区まちづくり構想」(沼津市)。サッカーJリーグ3部(J3)アスルクラロ沼津のJ2、J1への昇格を視野に、新スタジアムや市商工会が構想を進める道の駅などの実現を支援することとした。

◆2018年8月23日

伊豆地区分科会

伊豆地区分科会は、世界ジオパーク認定を受けた伊豆半島の観光ブランド化を模索した。会員100人が参加した。

基調講演は群馬県の草津温泉観光協会長で前草津町長の中沢敬氏。「観光立町」への取り組みなどを説明し「伝統を維持するために常に進化を続けていくことが必要」と指摘した。



◆2018年11月9日

東部地区分科会

東部地区分科会を沼津市内のホテルで開いた。医療や建築、AI(人工知能)の各分野の専門家が、人生100年時代を迎えた中での自立支援の在り方などを模索した。

基調講演は県立静岡がんセンター総長の山口建氏。健康社会の実現を目指し、創薬や診療機器の開発・研究を進める県の「ファルマバレープロジェクト」を紹介しながら健康寿命を延ばし、自立支援プロジェクトに関する情報を集めるなどして「県東部の次の産業として考えていくべきだ」などと話した。会員130人が参加した。



◆2018年12月3日

全体会

全体会は沼津市内のホテルで開かれた。富士宮市出身で建築家の高橋晶子さんが「建築のデザインと実用性」を演題に講演した。高橋さんは、昨年4月にグランドオープンした高知県立坂本龍馬記念館(高知市)の設計者。1991年開館の本館設計時を「30歳くらいで設計者として独立することを考え、龍馬のロマンを自身に重ねていた」と振り返った。

◆2019年3月6日

富士山地区分科会

御殿場市内のホテルで富士山地区分科会を開いた。県東部で自転車競技が開催される2020年東京五輪・パラリンピック大会後までを見据えたレガシー(遺産)作りや地域振興策を探った。静岡市出身のブリヂストンサイクル社長望月基氏が「残すべきは子どもの笑顔」と題して講演した。会員120人が出席した。

◆2019年3月27日

合同会議

幹事・運営委員と東部選出県議団、市町長らによる合同会議を沼津市のサンプルビルで開いた。2019年度活動方針案を大筋で了承した。会議には70人が出席した。時事通信社経済部長の小島洋氏が「消費税増税を控えた日本経済の動向」と題して講演した。



新産業の創出① スポーツ産業の振興

2020東京五輪・パラリンピック自転車競技の開催を控え、サイクルスポーツ全体に注目が集まる中、全県を挙げて準備が進んでいます。また、小山町の富士スピードウェイ周辺では、モータースポーツの聖地化が始まりました。



富士の麓にモータースポーツの聖地を



昨年8月、小山町の富士スピードウェイ(FSW)に隣接する土地でモータースポーツを核にした「モータースポーツビレッジ」(仮称)計画が発表されました。27㍉の広大な敷地には、モータースポーツの国内プロチーム用ガレージ、アマチュア用のガレージをはじ

め、レーシングカーの展示施設やホテル、カフェ・レストランなどの整備が予定されています。雇用創出も開発目的の一つで、このエリアだけで300人程度の雇用が見込まれます。各施設は、2020年頃から順次開業予定です。



■「世界中から訪れる人をもてなしたい」と語る込山正秀町長



■富士の麓に広がるモータースポーツの聖地(イメージ図=東和不動産提供)

自転車によるまちづくり



富士山地区分科会 2019.3.6

東部地区分科会のテーマは「地域におけるスポーツ産業の拡大」。伊豆市が自転車競技の開催地となる2020年の東京五輪・パラリンピックを控え、スポーツを地域の新たな産業に発展させ、地域創生にどうつなげていくかを基調講演やパネル討論を通じて模索しました。



■山本氏

■木部氏

■芹沢氏

■飯島氏

■大石氏

○パネル討論要旨

県の山本氏は策定中の県自転車活用推進計画の骨子を説明。車道の矢羽根型路面表示や国際大会誘致でレガシー創出を目指す考えを示した。木部氏は欧米での自転車利用者増加策を紹介して「地域社会との連携が重要」と指摘した上で、地元食材を選手に提供する形の地域交流を提案した。芹沢氏は自転車を電車で乗せて移動できる「サイクルトレイン」が導入されるまでの経緯を「サイクリストからの要望を受け、通勤・通学客との共存を考え実現した」と披露した。飯島氏は、県東部の自転車競技に対する認知度の低さに危機感を示し「五輪が始まるまでにそれぞれの立場で魅力を伝えてほしい」と呼び掛けた。

■パネル討論

「地域におけるスポーツ産業の拡大」

○パネリスト

県スポーツ局長	山本 東氏
県東部地域スポーツ産業振興協議会 サイクルスポーツ部会長	木部 一氏
伊豆箱根鉄道総務課長	芹沢章裕氏
ブリヂストンサイクル	飯島 誠氏

○進行

静岡経済研究所常務理事	大石人士氏
-------------	-------

(サンフロント21懇話会TESS研究員)

○県東部・伊豆で広がるサイクルスポーツ産業

・ハレノヒサイクル

三島市を中心に展開するシェアサイクルサービス。スマホで簡単に登録できる。この春から沼津地域にも範囲を広げた。



(出典:ハレノヒサイクルInstagram)

・メリダ MERIDA×BASE

道の駅「伊豆のへそ」に世界最大のメリダショールームである「MERIDA X BASE」が誕生。メリダの最新モデル全車種を見て、試乗することができる。



(出典:MERIDA×BASE HP)

・コナスティ

伊豆長岡の旅館をリノベーションした、サイクルフレンドリーなホテル。自転車持ち込み可のホテルを中心に、サイクルツアーやレンタサイクルが楽しめる。



(出典:コナスティ HP)

医療の発展などで高齢化がますます進む現代、健康寿命を延ばし自立支援を行って要介護の期間を短くしていくことが大切です。ファルマバレープロジェクトは、超高齢社会に応じたものづくり、居住空間づくりを見据え、県東部の拠点化に着手しました。

健康寿命延伸・自立支援プロジェクト

【目的】 高齢者が個人として尊重され、その人らしく暮らしていくための自立支援システムの構築

【取組】 老化現象予測・予防(プロジェクトHOPE) ・医療介入支援(開発と情報提供)
 ・補助器具紹介・開発 ・終の棲家整備(人生100年住宅の提案と開発)

多くの人々に起きる老化現象と老化関連病

多くの人々に起きる老化現象・疾患

精神機能変化	不眠	脳神経機能低下
老眼・白内障		食欲低下
難聴		反射機能低下
虫歯・歯周病		消化機能低下
動脈硬化		排便機能異常
高血圧		排尿障害
心機能低下		筋力低下
肺機能低下		骨粗しょう症
代謝機能異常		脊柱管狭窄症
更年期障害		変形性膝関節症

一部の人々に起きる重篤な病気

外傷	認知症	感染症	脳卒中	心臓病	がん
----	-----	-----	-----	-----	----

作成：静岡がんセンター

人生100年時代の自立支援がテーマに

東部地区分科会 2018.11.9

東部地区分科会のパネル討論は、座談会形式での開催となりました。医療や建築、AI(人工知能)の各分野の専門家が、人生100年時代を迎えた中での自立支援の在り方などを模索しました。



■山口総長 ■竹林氏 ■天野氏

■座談会

「超高齢社会における自立支援の実現に向けて」

○出席者

- 静岡がんセンター総長 山口 建氏
- 1級建築士 天野 彰氏
- 静岡大創造科学技術大学院特任教授 竹林洋一氏

○進行

- シード取締役副社長 青山 茂氏

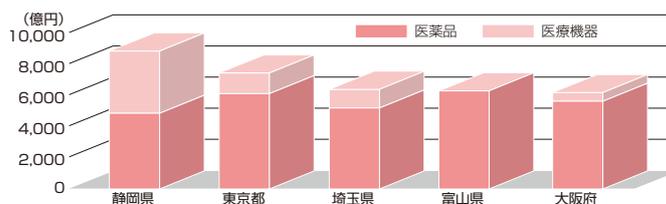
○パネル討論要旨

多くの高齢者対応型の住宅や介護施設の設計監理を担当した天野氏は「高齢者の生活を手助けするロボットのような設備が必要な時代が来る」と話しました。「みんなの認知症情報学会」(浜松市中区)理事長の竹林氏は「フル仕様の介護ロボット開発は時間がかかるので単機能で良い。人間の行動パターンの必要な部分をどうモデル化するか」と未来を見据えました。「長い老後」を幸福に過ごすための心構えについて山口総長は「生きがい」「周囲との絆」「森羅万象への興味」など5項目を挙げ「自立心が養われ、他人に完全に頼っている状態から一歩抜け出せる」と応じました。

7年連続日本一!医薬品・医療機器の生産額



2018年9月に厚生労働省から公表された「平成28年薬事工業生産動態統計年報」で、本県の医薬品と医療機器の合計生産金額は8,953億円となり、7年連続で全国第1位となりました。ファルマバレープロジェクトの開始以来、医療健康産業関連の企業誘致や、新規参入を促進する取り組みが数字に表れた形となりました。



静岡県の医薬品・医療機器の生産金額

都道府県名	2016年 生産金額 (億円)					
	順位	合計	順位	医薬品	順位	医療機器
全 国	—	85,384	—	66,239	—	19,146
静 岡 県	1(1)	8,953 全国比:10.5%	4(5)	5,487 全国比:8.3%	1(1)	3,466 全国比:18.1%
東 京 都	2(3)	7,389	2(3)	6,058	4(5)	1,330
埼 玉 県	3(2)	6,326	5(2)	5,176	5(4)	1,151
富 山 県	4(4)	6,253	1(1)	6,218	41(40)	34
大 阪 府	5(5)	6,142	3(4)	5,625	12(11)	517

※四捨五入のため合計値が合わない。

(厚生労働省 2016年薬事工業生産動態統計年報)

○ファルマバレーの最近の成果

放射線治療用マーカー

(株ア・ジャストポリマー)

御殿場市のア・ジャストポリマーは静岡がんセンターとの共同研究により、柔軟性・操作性・粘着性に優れ、かつアーチファクトを生じないX線透過性を持つ放射線治療用マーカーを製品化しました。



■柔軟性に優れた放射線治療用マーカー ■装着例

介護者の身体的負担を軽減する移乗機

(有京和工業 TRANSing)

長泉町の京和工業は、介護施設の介護職員が腰を痛める原因として、被介護者をベッドから車椅子やトイレなどに移す時に、抱き上げて移乗させることが大きいことに気づき、「抱き上げない移乗機」の開発を行いました。



■使用例

2年目を迎えた先端農業研究開発拠点「AOI-PARC(アオイ・パーク)」から続々と成果が生まれています。生鮮野菜ではわが国初のソフトケールが機能性表示食品に認定され、人気を博しています。



■次世代栽培装置

AOI-PARCを支える「知の集積」

AOI-PARCには、慶応大学SFCや理化学研究所などが研究室を開設、先端技術を駆使した次世代農業の可能性を探っています。

慶応大神城淳司教授 「経験と感を次世代につなぐ」

IT技術を活用し、熟練農家の優れた技能を学習するシステムを開発している。イチゴの栽培やミカンのせん定・摘果の様子をアイカメラで撮影し、聞き取りを行った結果を、スマホやタブレットなどで学習できるようにしている。



■熟練農家の摘果をアイカメラで撮影した画像

理研斎藤徳人 上席研究員 「工学分野で農業に貢献」

イチゴの葉や果実を侵し、枯死を招く炭疽病を、早期発見することで被害防止につなげる。イチゴ苗の葉の周辺に微量に発生するガスをレーザー光で計測し、罹患(りかん)しているか否かを見極める。



■イチゴの苗や葉から出る微量のガスの検知作業

クラスターの連携強化

県内4クラスターの連携を強化 — 知事鼎談



風は東から3月では、恒例の知事鼎談を開催。本年度は川勝平太県知事、ファルマバレープロジェクトからふじのくに医療城下町推進機構の大坪檀理事

長、AOI-PARCより理化学研究所の和田智之先生に、県内の4つの産業クラスターの連携について語っていただきました。

* * * * *

大坪 ファルマバレーの次なるテーマは「健康長寿で暮らせる家を作ろう」「介護機器を開発しよう」といったものです。食を通じて認知症を軽減する研究も進んでいると聞きました。

提案するわけですね。今、平均寿命と健康寿命には10歳ほど差があり、それを縮める研究が先進国でなされています。本県は、健康寿命が高く、健康のまま天寿を全うするという人類の夢を実現するには、いい立ち位置にあります。

和田 認知症になる20年も前からある特殊なたんぱく質が髄液の中に出ることが分かっています。70歳で発病するとすれば、すでに50歳でその傾向が表れている。それを計測し、この人にどういった食べ物をオンデマンドで作ってあげればいいのか分かる研究が進んでいます。

和田 これをぜひ産業にしてもらいたいですね。若い方を巻き込みたいと思います。これが産業化されればまた違った産業も生まれるので、その役割をAOI-PARCが担えればと思っています。

川勝 ビッグデータと疫学とゲノムをベースに、人の健康状態を正確に捉えて、それに応じた食生活を

大坪 県内4クラスターに働き掛けたら、一緒にやろうという話になってきました。次世代の大きな産業興しにつながっていくと思います。



■川勝平太県知事(左)、和田智之先生(中)、大坪檀理事長(右)

○県内産業をけん引する4つの産業クラスター

県東部
ファルマバレープロジェクト
富士山から世界へ、
「健康長寿」を発信

県中部
フーズ・サイエンスヒルズ
「食」と「薬」の融合により、
新たな機能性食品を創出

県西部
フォトンバレー
世界企業のふるさと・浜松に生まれ
れた「光」と「電子」のフロンティア

県東部
AOI-PARC
革新的な栽培技術開発で、
農業の飛躍的な生産性を向上



(出典:フーズ・サイエンスセンター HP)

伊豆半島ジオパークが世界ジオパークの仲間入りをし、伊豆地域が持つ地域資源がクローズアップされています。健康や文化、歴史など、さまざまな魅力が多層的に連なるこの地域をどのように魅力付けし、発信するか。今、地域の編集力が求められています。



■竜宮窟(伊豆半島ジオパーク推進協議会提供)

伊豆半島のブランド化を

伊豆地区分科会 2018.08.24

伊豆地区分科会は、世界ジオパーク認定を受けた伊豆半島の観光ブランド化を模索しました。



■神山氏

■新名氏

■高橋氏

■中沢氏

■中山氏

■パネル討論

「ジオからの恩恵と伊豆観光ブランド化」

○パネリスト

県民伊豆観光局長	神山正之氏
伊豆半島ジオパーク推進協議会専任研究員	新名阿津子氏
JTBヘルスツーリズム研究所長	高橋伸佳氏
草津温泉観光協会会長	中沢 敬氏

○進行

企業経営研究所常務理事	中山 勝氏
(サンフロント21懇話会TESS研究員)	

○パネル討論要旨

神山局長は、観光客数が東日本大震災以前の水準を回復したことを示し「“世界の宝”を活用し、地域や美しい伊豆創造センターと協力して、国内外に伊豆の魅力を発信する」と述べ、新名専任研究員は「地質、生態系、地域に根差した文化を総合的に守り、使っていこうというプログラム。伊豆半島は大きなアドバンテージがある」と話しました。

高橋所長は温暖な気候などを挙げてヘルスツーリズム(健康増進型観光)の受け入れ地としての適地性を強調。中沢氏は観光施策に関わった立場から「意見の違い、対立を避けてはいけない。最大公約数を取ってみんなでやっていく習慣づけが大切」と語り、観光地としての価値向上には議論の活発化が必要と指摘しました。

伊豆半島ジオパークが世界ジオパークに仲間入り



伊豆半島ジオパークは昨年4月17日、フランス・パリで開かれたユネスコ執行委員会で新規登録地域として世界ジオパーク認定されました。世界認定は国内9地域目で、2015年に世界ジオパークがユネスコの正式事業となってからは国内初となります。

現地ツアーや関連施設の来訪者はこの1年で急増。ツアーの開催数も、認定前は年間100件ほどだったものが18年度は約300件となりました。関係者は、さらなる認知度向上に向け受け入れ態勢を整える新たな取り組みを始めています。



■世界認定を祝ったくす玉割り(静岡新聞社提供)

○伊豆の魅力をジオで読み解く「滑沢渓谷」

天城湯ヶ島出身の作家井上靖の代表作「猟銃」は主人公の男の孤独な心情と、滑沢渓谷の黒々とした岩肌や流れる水の清冽(れつ)さが重ね合わされています。この渓谷を形作ったのは、滑沢火山から大量に流れ出した溶岩。長い年月をかけ、磨き上げられた岩肌が作家のイメージを喚起させました。



■滑沢渓谷(伊豆半島ジオパーク推進協議会提供)

健康を伊豆の新ブランドに



ヘルスツーリズムは、旅行という非日常的な楽しみの中で、旅行中のトラブルを回避し、健康回復や健康増進を図るものをいいます。旅をきっかけとして、旅行後も健康的な行動を持続することにより、豊かな日常生活を過ごせるようになることが目的です。経済産業省は

昨年、「ヘルスツーリズム認証制度」を始動。19年4月現在、全国で35の地域・施設が認定されています。

伊豆は、温泉や温暖な気候、豊富な食材など、ヘルスツーリズムを構成する要素にあふれています。

○特定保健指導つき宿泊プランを実施

健康増進と癒しのサービスを提供する伊豆の温泉宿のネットワーク「かかりつけ湯」は18年度、協会けんぽ静岡支部と協働で「特定保健指導つき宿泊プラン」のパイロット事業を行いました。対象は同支部加盟の県内中小企業。健康診断で「メ

タボ判定」を受けた社員に保健師が行う「特定保健指導」を、かかりつけ湯加盟宿での1泊2日の旅行プランに組み込みました。



懇話会が進める動物愛護の啓発支援活動は、NPO法人「人と動物のハッピーライフ」の設立につながり、セミナーや講演会などを通じた活動に発展しています。一昨年長泉町に開院した動物先端医療センターは、このたび新たな研究拠点の設置に乗り出しました。



NPOが活動を加速化

NPOでは、獣医師による定期的なセミナーや、地域の観光事業者が登壇し、ペットの受け入れについて議論したパネル討論などを通じて、地域の人々に動物と共により良く暮らす方法を啓発しています。

○講演会

2018年6月10日(日)

長泉町文化センターベルフォーレ

テーマ: 動物同伴受け入れの心

2019年3月3日(日)

プラサヴェルデ

テーマ:

成長過程に応じた伴侶

動物との付き合い方



■講演会の様子

○セミナー

5月26日(土) ペットのがんの早期発見のために

7月28日(土) ペットの手作り食

9月29日(土) 犬・猫の神経病について

11月24日(土) 病気から愛犬・愛猫を守るには

2月23日(土) 犬と猫の体表腫瘍

3月30日(土) イヌとネコの下痢・嘔吐



わんわんフェスティバルin門池を開催しました

秋には、NPO法人人と動物のハッピーライフが「わんわんフェスティバルin門池」を開催。飼い主とわんちゃんが楽しみながら友達を増やしたり、飼い主とわんちゃんとの関係が深まったりしたイベントでした。また、動物先端医療センターAdAMの協力で、医師や看護師が病気やしつけ、食事の相談にあたりました。

日時/10月13日(土) 場所/沼津市門池公園



ヒトと動物の懸け橋に～「ヒトと動物の臨床研究情報センター」設立



2017年4月に長泉町に開業した「動物先端医療センターAdAM」は、産学の積極的な共同研究を進めています。このたび、こうした研究を一步進めるため、伊藤博東京農工大学名誉教授が中心となり「ヒトと動物の臨床研究情報センター」が設立されました。同センターは、医学領域における最先端の臨床研究と、獣医療における自然発症の動物から得られる臨床データの情報を互いに共有し、従来抱えている多くの

問題点を検討、克服していくものです。

具体的には、がんにおける新規医薬品の開発やマイクロRNAの測定により血液、唾液、尿などの体液1滴で瞬時にがん種がわかる体外診断薬の開発に着手しました。この手法を用いて早期にがんが発見され、治療や予後の判定、がんの動きを一早く見極めて対応することが可能になる日が近いと思われます。

動物先端医療センターAdAM 伊藤博院長(東京農工大学名誉教授)

「臨床データの共有でより良い治療法を模索」

がんは極めて手ごわく、動物の寿命も短期であることから、その増殖スピードはヒトに比べ数倍の速さで進行していきます。一日でも早く新しい薬や医療の技術開発を発掘しなければなりません。そこで、私達は一般社団法人「ヒトと動物の臨床研究情報センター」を東京医科大の落谷孝広教授、東大の沖津輝教授と共に設立しました。



東京医科大 落谷孝広教授

「静岡発の世界に向けた研究を開始」

動物も人と同じように手厚いケアをするという考え方は、欧米ではすでに浸透しています。中国もしかりです。ここでの研究は、少なくとも診断薬では日本初でしょうし、しかもマイクロRNAを使うということは非常に斬新で、世界の手本になるものと思っています。





懇話会活動を広く情報発信

SBSラジオ「土曜ワイド ラジオEAST」

<http://www.at-s.com/sbsradio/program/east/>

SBSラジオ 毎週土曜日
11:00~12:55

サンフロント21懇話会が母体となり、東部・伊豆の地域情報を2時間にわたり放送。清水町の大型ショッピングセンター「サントムーン柿田川」内のサテライトスタジオ

「LISPA」から毎週旬な情報を生放送しています。本年度は公開放送を7回開催しました。



■ ラジオEAST 番組ホームページ

番組で取り上げた話題を写真とテキストで紹介しています。

URL
<http://www.digisbs.com/radio/program/east/>

番組公式Twitterも始めました。3人のリポーターがそれぞれアカウントを持って、担当コーナーの裏話をつぶやいています。



静岡新聞特集記事「風は東から」



<http://www.sunfront21.org/index.html>

静岡新聞東部版・朝刊 毎月第4日曜日掲載

掲載は22年目に入りました。東部地域の活性化に向けたさまざまな取り組みや、懇話会活動の一端を毎月1回、新聞紙上で紹介しています。

東部、伊豆、富士山の各地区の分科会はパネル討論を毎回取り上げ、読者に県東部・伊豆のさまざまなテーマへの興味を喚起しています。



静岡新聞連載記事 「熱き地域人」

本紙に連載。地域振興に取り組む懇話会会員の「熱き思い」をインタビュー形式で紹介しています。

サンフロント21懇話会 ホームページ

懇話会活動がひと目で分かるホームページ。懇話会の設立主旨や沿革をはじめ、新聞の特集記事「風は東から」のバックナンバーや、1年間の活動をまとめた冊子「飛躍」などが閲覧できます。

URL <http://www.sunfront21.org/index.html>





2019年度活動方針

2019年度は、中長期的な視点で継続的に取り組む提言・支援活動を

- ▽地域創生につながる新産業創出と既存産業の持続的発展を支援
- ▽新たな観光価値創造への取り組みを支援
- ▽動物愛護と福祉思想の普及活動支援と新たな展開を支援
- ▽「原・浮島地区まちづくり構想」実現に向けた支援に定めました。

■ 地域創生につながる新産業創出と既存産業の持続的発展を支援

東京五輪・パラリンピック開催を契機とするスポーツ産業の推進を支援

伊豆市のベロドロームが東京2020五輪・パラリンピックの自転車トラック競技の会場となります。またMTB(マウンテンバイク)競技の同市での開催も決定しました。さらにロードレースは富士山麓を周回し、小山町の富士スピードウェイがゴールというコースになります。7月にはテストイベントが始まります。県東部の20市町が広域的に連携し、スポーツ産業推進に積極的に取り組むことが求められます。自転車競技は欧州を中心に非常に人気がある競技であり、新たなスポーツ人口拡大と新産業創出の機会に捉え、サイクルツーリズムをはじめ新たな観光交流の促進、既存産業のスポーツ産業参入につなげていきたいと思えます。富士山や伊豆半島の観光産業、地域産業の振興までを視野に入れた支援活動を実施していきます。また五輪・パラリンピックの終了後も、レガシーとして残していくことについても支援をしていきます。



ファルマバレー・プロジェクト／アグリ・オープンイノベーションプロジェクト推進

2016年に新産業の研究開発拠点ファルマバレーセンターが、静岡がんセンターに隣接して開設されました。静岡県が掲げる健康寿命延伸および新産業創出の視点から、ファルマバレー・プロジェクトで進めている、人生100年時代へ向けた自立支援に必要なモノづくりのコンソーシアム構築及び人材の育成・活用について支援をしていきます。

また2017年には沼津市に農業の先端技術研究拠点「AOI-PARC」が開所されました。AOI-PARCは、「農・食・健」の連携により農業の先端技術を開発し、農業の生産性革新を図るアグリ・オープンイノベーションプロジェクトの拠点となっています。研究、生産や流通、販売までを含む6次産業化を目指した新たな構想の支援についても検討をしていきます。

セルロースナノファイバー(CNF) 実用化へ認知度向上を支援

木材繊維を高度にナノ化した「セルロースナノファイバー(CNF)」は、未来の素材として研究が進められています。鋼鉄の5倍の強度を持ち、軽くて加工しやすい上、原料は杉ヒノキなどごく一般的な針葉樹と資源に乏しい日本にとって格好の素材です。富士市など県東部には紙パルプ製紙業の蓄積があり、CNF事業拠点となり得る可能性が高いと考えられます。用途開発や実用化に向けた認知度向上、情報発信を支援していきます。

■ 新たな観光価値創造への取り組みを支援



世界遺産観光の新たな展開を提案

伊豆の国市の「韮山反射炉ガイダンスセンター」、富士宮市の「富士山世界遺産センター」は、いずれも各々独自の世界遺産の価値を学ぶ新たな観光の拠点となるものとなっています。学習型観光を深めることは、リピーターの育成につながり、持続的に観光地の経済振興に寄与していきます。またヘルスツーリズムやサイクルツーリズムとの連動も検討していきたい。

2019年1月伊豆縦貫道を構成する天城北道路が全線開通し、静岡県によるバイパスを含め下船原まで伸びました。“現代の天城越え”区間とも呼べる計画も

進み、格段の観光振興が期待されます。広く観光価値創造への支援をします。

伊豆半島の魅力を明確化、情報発信を支援

地域活性化につなげる取り組みとして、川端康成をはじめ数多の文豪を虜にしてきた伊豆ならではの宿、食、温泉といった魅力を明確化した新たな観光誘客やまちづくりを支援します。

伊豆半島ジオパークも2018年4月に正式に「世界ジオパーク」としてユネスコから認定を受けました。活用に向けた支援策を検討していきます。

■ 動物愛護と福祉思想の普及活動支援と新たな展開を支援



当懇話会が2011年に静岡県知事に提言した動物保護施設(アニマルシェルター)の設置に始まる動物愛護の啓発活動は、特定非営利活動法人「人と動物のハッピーライフ」の主催するシンポジウムなどにより、着実に成果を上げてきました。2017年に

長泉町に開院した「動物先端医療センター」など、東部地域は「人と動物が共に生き・幸せに暮らせるまちづくり」の先進地区として歩を進めています。今後も同法人などによる啓発活動や実践講座を支援していきます。

■ 「原・浮島地区のまちづくり構想」実現を支援



これまで水害などの懸念があった原・浮島をはじめ今沢・愛鷹など沼津市西部地域は、新放水路や東名、新東名のスマートインター整備、東駿河湾環状道路の西進などで、開発の可能性が高まっています。またサッカー新スタジアムや道の駅の新設、新駅設置など、この地域のまちづくりに向けて広く支援をしていきます。





会員名簿

● 会員 (2018年度)

氏名	会社名	役職
相吉 三宏	静宏産業(株)	代表取締役
青木 孝弘	(一財)企業経営研究所	理事長
青島 伸明	(株)安心堂沼津店	店長
青山 茂	(株)シード	取締役副社長
赤尾 宣長	(株)ホテルニューアカオ	代表取締役社長
赤堀 肇紀	赤武エンジニアリング(株)	代表取締役社長
秋本 智彦	静岡県農業協同組合中央会	東部支所長
秋山 勇雄	SBSマイホームセンター(株)	取締役会長
揚野江利子	あげの法律事務所	
浅羽 一秀	あさば旅館涵翠閣	代表取締役
浅見 祐司	富士信用金庫	理事長
芦川 勝年	沼津市商店街連盟	会長
足立 吉松	足立会計事務所	所長
阿武野康弘	(株)センス	代表取締役
飯田 悦郎	飯田工業薬品(株)	代表取締役
飯田 互	大東紡エステート(株)	取締役社長
伊海 剛志	(株)イカイ	代表取締役社長
井口 賢明	あさひ総合法律事務所	所長
池澤 憲司	(株)大丸松坂屋百貨店 松坂屋静岡店	店長
池田 修	長泉町	町長
池田 誠	池田病院	院長
石井 太郎	(株)富陽軒	専務取締役
石井 誠	(株)石井組	代表取締役社長
石川善太郎	静岡新聞社	社長室長
石川 三義	社会福祉法人春風会	理事長
石川雄一郎	石川建材工業(株)	代表取締役社長
石川 征雄	(株)ミツイン	代表取締役
石埜 雅己	静岡放送	報道制作局長
石部 哲也	静岡新聞社	東部総局次長
伊丹 秀之	(有)松韻	代表取締役社長
市川 顯	静岡県東部地域局	次長
井出 行俊	(株)いでばく	代表取締役
伊藤 高義	富士川まちづくり(株)	代表取締役社長
伊東 哲夫	伊東法律事務所	所長
伊藤 稔	(株)共和	代表取締役
稲葉 良司	(一社)伊東観光協会	会長
岩城 徹雄	(一財)アグリオープンイノベーション機構	専務理事兼事務局長
岩崎 清悟	静岡ガス(株)	取締役 特別顧問
植草慎一郎	(株)康報社植草新聞店	代表取締役社長

氏名	会社名	役職
植田 勝智	(一財)ふじのくに医療城下町推進機構	ファルマハレーセンター長
植松 和子	静岡県総合健康センター	技監
植松 孝康	(株)植松グループホールディングス	代表取締役
植松 恒裕	静岡新聞社	取締役東部総局長
植松 眞	(株)トーヨーアサノ	相談役
臼井 良太	臼幸産業(株)	代表取締役
内田 豪	(株)ダイナナ	代表取締役社長
内田 進	熱海商工会議所	会頭
内野 聡	大岡建設工業(株)	代表取締役
宇野 統彦	(株)桃中軒	代表取締役会長
卜部 憲和	沼津市立病院	病院長
江藤 秀一	常葉大学静岡草薙キャンパス	学長
遠藤 茂美	日本ガス興業(株)	代表取締役社長
遠藤 忠男	(有)遠藤新聞舗	代表取締役
大石 人士	(一財)静岡経済研究所	常務理事
大石 剛	静岡新聞社・静岡放送	社長
大石 俊一	静岡県富士土木事務所	所長
大川 博幸	丸忠デジタル(株)	代表取締役
大久保勝也	住友生命保険相互会社沼津支社	支社長
大塩 秀樹	黄瀬川自動車学校	代表取締役社長
大須賀紳晃	静岡新聞社	常務取締役
太田 長八	東伊豆町	町長
大嶽 正泰	宗教法人三明寺	代表役員
大槻 善勇	西日本電信電話(株)沼津支店	営業支店長
大坪 檀	静岡産業大学	総合研究所所長
大西 真吾	富士通(株)沼津工場	工場長
大沼 裕之	特種東海製紙(株)	取締役執行役員 特殊素材カンパニーCEO
大野 数芳	(株)大野商店	代表取締役
大村 新治	静岡県賀茂健康福祉センター	所長
大村 保二	大村興業(株)	代表取締役会長
小笠原一夫	宇徳通運(株)	代表取締役社長
岡田 晃一	南駿農業協同組合	代表理事組合長
岡野 光喜		
岡部 克仁	南伊豆町	町長
荻田 勝雄	富士急シティバス(株)	相談役
荻田 雅宏	静岡新聞社	編集局長
刑部 治	(株)啓伸社	代表取締役
小澤 誠	静岡放送	取締役ラジオ局長
小野 達也	伊東市	市長

氏名	会社名	役職
小野 徹	小野建設(株)	代表取締役
小野登志子	伊豆の国市	市長
柿島 直人	三島函南農業協同組合	代表理事組合長
影山 桓義	(株)影山運輸	代表取締役会長
河西晋二郎	沼津開発興業(株)	代表取締役
片野 光男	静岡県沼津財務事務所	所長
片淵 典利	(株)港	代表取締役
片山 劼	伊豆総合産業(株)	代表取締役社長
片山 倫一	静岡県信用保証協会	常務理事
勝又 規雄	ライオンファイル(株)	取締役会長
勝又 寛治	(株)沼広	代表取締役
加藤 和彦	(株)コーゲツ	代表取締役
加藤 修一	(株)加藤工務店	代表取締役
加藤 昌利	(株)ホテル銀水荘	代表取締役社長
加藤瑠美子	(学)加藤学園	副理事長
加部 慎也	明治安田生命保険相互会社沼津支社	支社長
神尾 啓治	マックスバリュ東海(株)	代表取締役社長
神山 正之	静岡県東部地域局伊豆観光局長	伊豆観光局長
河田 亮一	加和太建設(株)	代表取締役
河西 幸一	明德建設(株)	代表取締役
川原崎康雄	(株)マキヤ	代表取締役
菊地 豊	伊豆市	市長
岸 重宏	河津町	町長
北岡 貴人	(株)暖香園	代表取締役社長
北村 敏廣	静岡新聞社	顧問
北村 誠	静岡県賀茂地域局	局長
木下 好雄	(株)片岡屋	代表取締役社長
木村 拓	野村證券(株)沼津支店	支店長
木村 昌宏	木村美都子税理士事務所	税理士
桐部 都宏	(株)伊豆フェルメンテ	代表取締役社長
黒崎 泰	コアレックス三栄(株)	代表取締役
黒柳 康江	静岡県東部農林事務所	所長
小出 宗昭	富士市産業支援センターf-Biz	センター長
後藤 睦	静岡県東部健康福祉センター	所長
伍堂 文康	伊豆箱根鉄道(株)	代表取締役社長
後藤 行宏	(株)ゴトー	代表取締役会長
小長井義正	富士市	市長
小林 一哉	(株)ホテルグランド富士	代表取締役社長
小林 敏彦	スルガ銀行(株)	本店営業部 部長

氏名	会社名	役職
小林 祥彦	ニッピコラーゲン工業(株)	常務取締役
込山 正秀	小山町	町長
近藤 千秋	近藤鋼材(株)	代表取締役社長
近藤 雄二	(株)TOKAIケーブルネットワーク	常務取締役
近藤 良夫	近藤良夫会計事務所	所長
齊藤 栄	熱海市	市長
齊藤 大	伊東ガス(株)	代表取締役社長
齊藤 弘幸	(株)コサウエル	代表取締役社長
佐伯 隆彰	(有)佐伯新聞店	代表取締役
酒井 仁志	静岡県富士健康福祉センター	所長
坂本 光司	法政大学大学院 政策創造研究課	教授
佐々木道武	大成有楽不動産(株)浜松営業所	浜松営業所長
佐藤 勝彦	静岡県熱海土木事務所	所長
佐藤慎一郎	佐政水産(株)	専務取締役
佐藤 孝行	沼津魚市場(株)	代表取締役社長
佐藤 秀樹	(株)サトウ商会	代表取締役
佐藤 裕靖	静岡県熱海財務事務所	所長
佐藤 真	日本政策金融公庫沼津支店	支店長
佐藤 宗徳	(株)佐藤建設	取締役 副社長
佐野 茂樹	青木建設(株)	代表取締役
佐野 富和	(株)エンビプロ・ホールディングス	代表取締役社長
佐野 正幸	(有)佐野新聞店	代表取締役
佐野 禎彦	静岡県工業技術研究所富士工業技術支援センター	センター長
塩野 敏晴	(一財)静岡経済研究所	主席研究員
斯波 幹和	(株)サン	代表取締役社長
渋谷 妙子	静岡県富士財務事務所	所長
下田 城二	東海プラント(株)	執行役員
新西 規暁	ダイワロイネットホテルぬまづ	支配人
榛葉 英二	静岡放送	常務取締役
杉山 金芳	沼津商工会議所	専務理事
杉山 英文	FDブレイン&コンシェルジュ	代表
杉山 雄一	(株)杉山鉄工	代表取締役
鈴木 和江	観音温泉	代表取締役社長
鈴木 和宏	御殿場高原ビール(株)	代表取締役
鈴木 正二	東静岡運送(株)	取締役会長
鈴木 静一	東邦印刷包装(株)	代表取締役会長
鈴木 経康	沼津情報・ビジネス専門学校	校長
鈴木 智昭	総合警備保障(株)沼津支社	支社長
鈴木 浩靖	(株)静岡銀行沼津支店	執行役員沼津支店長



会員名簿

● 会員 (2018年度)

氏名	会社名	役職
鈴木 文三	サンコー防災(株)	代表取締役
鈴木 幸彦	清水物産(株)	代表取締役社長
須藤 秀忠	富士宮市	市長
澄田 達也	SMBC日興証券(株)沼津支店	支店長
諏訪部照久	(株)スワベ商会	代表取締役社長
諏訪部敏之	丸善工業(株)	会長
清 哲也	(株)大石組	代表取締役社長
清野 眞司	(株)静岡中央銀行	代表取締役社長
関本 芳英	東海金属工業(株)	代表取締役社長
副島 敏昭	積水ハウス(株)沼津支店	支店長
曾根原容子	(有)エス.	代表取締役
園田 修治	富士通(株)静岡東部支店	支店長
高木 宣明	ユニプレスモールド(株)	代表取締役社長
高村 謙二	裾野市	市長
高山 祐	(株)近畿日本ツーリスト首都圏沼津支店	支店長
田代 寿夫	(株)田代新聞センター	代表取締役
田代 豊	スルガコンピューターサービス(株)	代表取締役
田子 博英	スルガカード(株)	代表取締役社長
田中 清	(株)静岡伊勢丹	代表取締役社長
田中 実	(株)伊豆新聞本社	代表取締役社長
谷川 治	静岡新聞社	常務取締役
田村 治義	ニューウェルサンピア沼津	総支配人
知久 昌樹	静岡新聞社	取締役営業局長
千葉 慎二	(株)鈴木工務店	代表取締役社長
土屋 順一	東海建設(株)	代表取締役
土屋 誠司	(株)富士和	代表取締役会長
土屋 隆男	木内建設(株)沼津支店	支店長
土屋 忠博	(株)電業社機械製作所	代表取締役社長
土屋 敏博	(株)東報	代表取締役社長
土谷 直人	ニッセー防災(株)	代表取締役
土屋 紀雄	(株)土屋建設	代表取締役
土屋雄二郎	雄大(株)	代表取締役会長
土屋龍太郎	土屋建設(株)	社長
堤 親朗	(株)イブラシ	代表取締役
坪内 祐一	三島商工会議所	専務理事
土井 宣博	(株)雅心苑	代表取締役社長
土居 弘幸	岡山大学大学院	教授
土江 誠	(株)エム・オー・エー商事	取締役
豊岡 武士	三島市	市長

氏名	会社名	役職
鳥居 清美	(株)エイワンススポーツプラザ	代表取締役
直井 稔一	ダイハツ沼津販売(株)	代表取締役社長
永倉 聡	沼津通運倉庫(株)	代表取締役社長
長澤 一成	(株)耕文社	代表取締役社長
中澤 正樹	東海ビバレッジサービス(株)	代表取締役
長島 郁夫	沼津埠頭(株)	代表取締役
長嶋 精一	松崎町	町長
中島 敏雄	静岡県下田財務事務所	所長
中嶋 三恵	(株)山六ひもの店	代表取締役
中島 幹雄	(一社)熱海市観光協会	代表理事
中谷 孔右	静岡県田子の浦港管理事務所	所長
中野 幸孝	(株)平安	代表取締役
中村真一郎	日本製紙(株)富士工場	富士工場長
中山 勝	(一財)企業経営研究所	常務理事
梨本 幸博	ネットヨク静岡(株)	代表取締役社長
西島 昭男	(株)シード	代表取締役社長
西島 洋司	医療法人社団親和会西島病院	理事長
仁科喜世志	函南町	町長
新田恭一郎	(株)ホテルサンバレー	代表取締役
野村 勝也	(株)野村商店	代表取締役社長
萩原 仁	(株)JTB静岡支店	副支店長
長谷川剛司	静岡県富士農林事務所	所長
服部徹一郎	(株)チキリ	代表取締役社長
花堂 晴美	子育て支援ネットワーク「スイートピー」	代表
羽野 久雄	羽野水産(株)	代表取締役会長
早川 弘之	東海自動車(株)	代表取締役社長
林田 尚翁	(株)静岡博報堂	代表取締役社長
原 広司	静岡県沼津土木事務所	所長
原川 篤	税理士法人奈良橋・山本会計事務所	代表社員
原川 隆信	プラサ ヴェルデ	館長
原口 茂	富士商事(株)	代表取締役
東岡 宏明	ひがしおかメディケクリニック	院長
一杉 真城	ヒトスギ塾	会長
日吉 晴久	(株)テクノサイエンス	代表取締役
平井 一之	(一社)静岡県環境資源協会	専務理事
平井 克弘	スルガ総合保険(株)	代表取締役社長
平井 敏雄	三島信用金庫	理事長
福井 祐輔	下田市	市長
福島 英明	(株)関電工静岡支店	執行役員 静岡支店長

〈入会〉(2018~19年度)

氏名	会社名	役職
相吉 三宏	静宏産業(株)	代表取締役
赤尾 宣長	(株)ホテルニューアカオ	代表取締役社長
秋本 智彦	静岡県農業協同組合中央会	東部支所長
阿武野康弘	(株)センス	代表取締役
石川善太郎	静岡新聞社	社長室長
井出 行俊	(株)いでばく	代表取締役
伊藤 稔	(株)共和	代表取締役
木下 好雄	(株)片岡屋	代表取締役社長
小出 宗昭	富士市産業支援センターf-Biz	センター長
小林 祥彦	ニッピコラーゲン工業(株)	常務取締役
佐藤 真	日本政策金融公庫沼津支店	支店長
佐野 富和	(株)エンビプロ・ホールディングス	代表取締役社長
杉山 英文	FDブレイン&コンシェルジュ	代表
高木 宣明	ユニプレスモールド(株)	代表取締役社長
直井 稔一	ダイハツ沼津販売(株)	代表取締役社長
中野 幸孝	(株)平安	代表取締役
平井 一之	(一社)静岡県環境資源協会	専務理事
伏見 保則	東京電力パワーグリッド(株)静岡総支社	総支社長
星川 隆司	伊東ホテル聚楽	執行役員 総支配人
森田 邦裕	(株)エー・エル・シー	代表取締役社長
渡邊偉佐男	(株)フジテック	代表取締役
大瀧 博敏	(株)大瀧建築事務所	代表取締役
大塚 力	(株)証券ジャパン沼津支店	支店長
川口 祐介	富士木材(株)	代表取締役社長
小森 泰信	(一社)伊豆市観光協会	代表理事
土屋雄二郎	特定非営利活動法人沼津観光協会	会長
杉山 嘉章	(一社)三島建設業協会	専務理事

● 県東部選出県議団 (県議会議員)

氏名	
藤曲 敬宏	熱海市
中田 次城	伊東市
土屋 源由	伊豆の国市
野田 治久	伊豆市
和田 篤夫	御殿場市・小山町
勝俣 昇	御殿場市・小山町
森 竹治郎	下田市・賀茂郡
鳥澤 由克	裾野市
坪内 秀樹	清水町・長泉町
杉山 盛雄	沼津市
蓮池 章平	沼津市
曳田 卓	沼津市
加藤 元章	沼津市
廣田 直美	函南町
植田 徹	富士市
早川 育子	富士市
鈴木 澄美	富士市
伴 卓	富士市
四本 康久	富士宮市
木内 満	富士宮市
宮沢 正美	三島市
伊丹 雅治	三島市



2018年度を振り返って

サンフロント21懇話会 運営委員長

伊東法律事務所 所長

伊東哲夫

2018年度を振り返りますと、変化に富んだ激しい動きのあった年だったと思います。4月に南北首脳会談のニュースが世界を駆け巡り、18年度は始まりました。6月には米朝首脳会談がシンガポールで行われ、「北朝鮮の非核化」を世界中が期待しましたが、19年2月に行われたベトナムでの2回目の首脳会談は決裂をしました。また、欧州はもとより世界経済へ大いなる影響が予想される英国のBREXIT(EUからの離脱)問題も未解決状態です。この二つが今後どのように展開されるか目の離せない状況になっております。

一方国内では、多くの犠牲者を出した西日本豪雨、北海道や大阪では大きな地震がありました。大型の台風が何度も上陸し、大きな被害をもたらしました。非常に気温が高くなった夏、逆に冬には北国での記録的な大雪といった、災害や異常気象が頻発した年でした。そんな中でも本県とゆかりのある本庶祐氏が、がん治療に大いなる道を開いたとして、ノーベル医学生理学賞を受賞したことはとても喜ばしいニュースでした。

さて、サンフロント21懇話会は18年度「地域創生につながる新産業創出を支援」「新たな観光価値創造への取り組みを支援」「動物愛護と福

祉思想の普及活動支援と新たな展開を支援」「原・浮島地区まちづくり構想の実現に向けた支援」という、4つの活動方針を基本的に踏襲し、様々な活動を進めてまいりました。5月に三島市での総会から始まり、伊豆地区、東部地区、富士山地区での各分科会を催しました。さらに全体会や県東部地区選出の県議・市長町長との合同会議を開催し、多くの有益な情報や多角的なご意見を伺いながら、我々の進むべき方向性を探ってまいりました。

「令和」という新しい時代がスタートしました。新年号には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められているということです。平和で豊かな時代が来ることを願います。来年には東京2020オリンピック・パラリンピックが開かれ、伊豆市や富士山で自転車競技が行われます。世界的なイベントが地元で行われ、国内外から大勢の方が県東部を訪れることと思います。行政や市民との連携を密にしながら、多面的に支援を進めていきたいと思っております。

サンフロント21懇話会の活動も今年度で25年目を迎えました。四半世紀にわたる皆様のご尽力に心より感謝するとともに、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



<http://www.sunfront21.org/>

■ 発行/2019年 5月24日

〒410-8560 沼津市魚町1番地サンフロント5F 静岡新聞社・静岡放送東部総局内 サンフロント21懇話会事務局 TEL.055-962-6520